

「あたらしい農山漁村づくり」に関するアンケート実施報告

「あたらしい農山漁村づくり」に関するアンケートの実施結果を下記のとおり報告いたします。

アンケートにご協力いただきましたe - モニターの皆さまに厚くお礼を申し上げます。

アンケート概要

アンケート実施期間

平成21年9月17日から平成21年9月30日まで

意見募集の結果

対象者数 1,504名

回答者数 1,055名

回答率 70%

回答者属性

性別 【男性】579名 54.9% 【女性】476名 45.1%

年代別

【20代】	【30代】	【40代】	【50代】	【60代】	【70代以上】
133名	238名	261名	232名	141名	50名
12.6%	22.6%	24.7%	22.0%	13.4%	4.7%

地域別

【北勢】	【中南勢】	【伊賀】	【伊勢志摩】	【東紀州】
474名	288名	105名	145名	43名
44.9%	27.3%	10.0%	13.7%	4.1%

産業・業種別

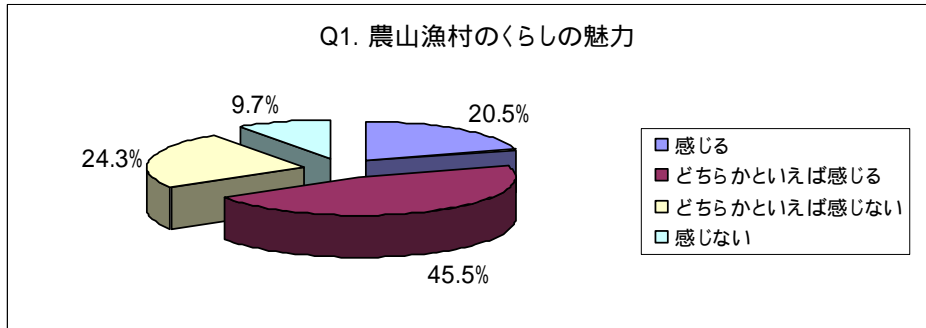
農林漁業	16名	1.5%
製造業	171名	16.2%
商業・サービス業	177名	16.8%
建築・不動産業	64名	6.1%
運輸・通信業	40名	3.8%
金融・保険関係	28名	2.7%
医療・福祉関係	62名	5.9%
教育・保育関係	49名	4.6%
公務員	54名	5.1%
学生	16名	1.5%
無職	252名	23.9%
その他	126名	11.9%

アンケート結果を受けて

設問1 農山漁村のくらしの魅力

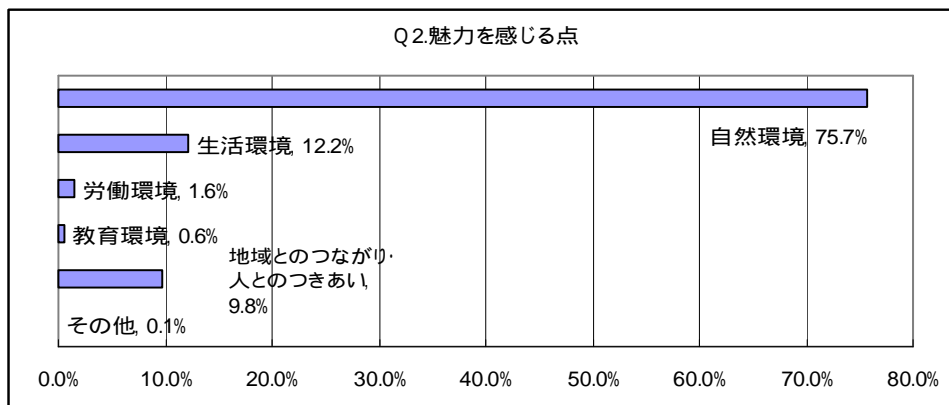
農山漁村のくらしの魅力について、「感じる」が20.5%、「どちらかといえば感じる」が45.5%と、「感じる」とお答えいただいた方が66%でした。

また、「どちらかといえば感じない」が24.3%、「感じない」が9.7%と、「感じない」とお答えいただいた方が34%でした。



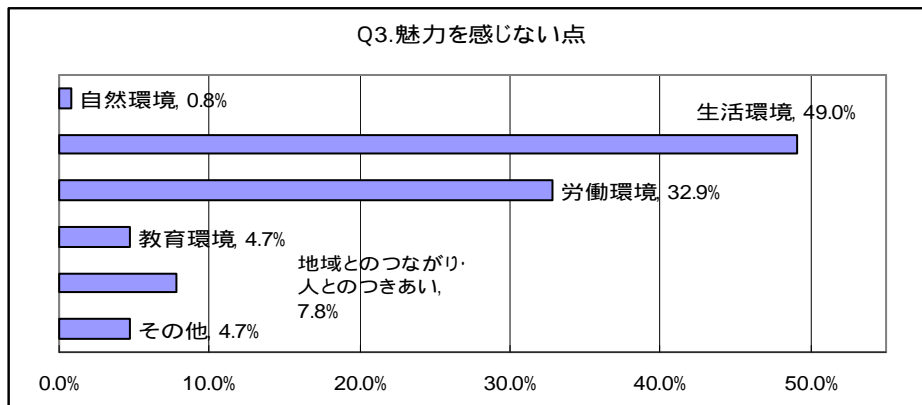
設問2 魅力を感じる点

農山漁村のくらしに魅力を感じる点としては、「自然環境」が75.7%と最も多くなっています。次いで、「生活環境」(12.2%)、「地域とのつながり・人とのつきあい」(9.8%)の順となっています。



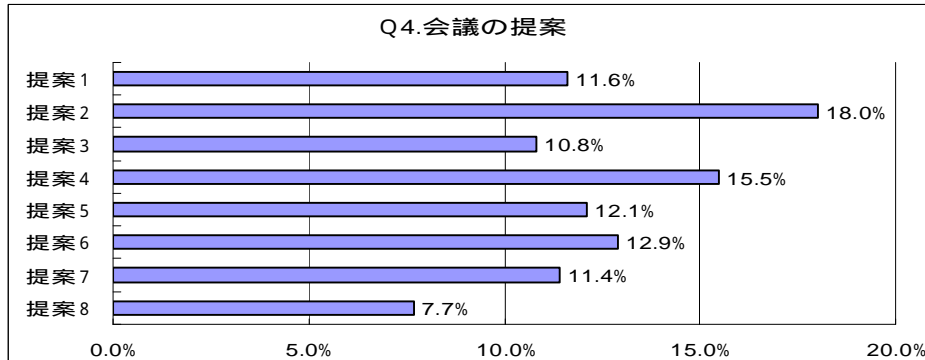
設問3 魅力を感じない点

農山漁村のくらしに魅力を感じない点としては、「生活環境」が49.0%と最も多く、次いで、「労働環境」(32.9%)となっており、この2つの項目が他と比較して多くなっています。



設問4 会議（みんなで創ろう「みえの舞台づくり」会議）の提案

「みえの舞台づくり」会議で委員の皆さんから出された「中間支援がこのような取組を行ってはどうか」という提案に対して、実施すると良いと思う提案を3つ選んでいただいたところ、提案2が18.0%と最も多く、次いで提案4（15.5%）、提案6（12.9%）の順となっています。



提案1	三重の農産物等の魅力と安心を伝えるような、営業マンによるPR活動を生産者側に立って実施し、販売の促進をはかる。
提案2	顔の見える売買と生産者の収入拡大をめざして、日替わりで農産物等を直接販売できるチャレンジショップを作る。
提案3	就農支援のしくみづくりとして、三重県の農業版就職支援サイト(ホームページ)を設置する。
提案4	第一次産業に従事する人が増えるように、技術を身に付けるしくみづくりに取り組む。
提案5	農山漁村に暮らす人々がその生活や産業に誇りを持てるような、体験・交流事業を実施する。
提案6	訪れる人たちに農山漁村のくらしや産業をより知ってもらえるような、体験・交流事業を実施する。
提案7	食育への意識を高めるように、農産物の生産現場などをめぐる交流事業を実施する。
提案8	農山漁村のくらしの情報提供と魅力再発見をめざして、農山漁村のくらし体験内容(動画・写真・文章)を伝える手段を作る。

設問5 中間支援組織による取組への具体的なアイデア

設問4で選択された提案をさらに良くするための具体的なアイデアとして、数多くのご意見をいただきました。

提案1 地域産品の発掘・営業のために、どんな活動をしたらいいですか

- ・「安全・安心」、「新鮮さ」をアピールする
- ・駅や量販店、イベントなどでPRを行う
- ・都会にアンテナショップを設置する
- ・著名人に県産品をアピールしてもらう
- ・農産物のブランド化をはかる

提案2 チャレンジショップとして、どんなお店があればいいですか

- ・道の駅やスーパー、観光地、朝市に設置する
- ・中心街の空き店舗を活用する
- ・調理されたものや規格外のもの、無農薬のものを販売する
- ・農産物を使った料理などを楽しめる
- ・インターネットによる通信販売や、車での移動販売を行う
- ・学生からお年寄りまで幅広く働ける場とする
- ・エコと健康を組み合わせたショップをつくる

- 提案3 就農支援のしくみづくりのために、何が必要だと思いますか
- ・就農環境を改善するため、会社組織をつくる
 - ・就農サイトに、生計や求人に関する情報などを掲載する
 - ・社会的保障の充実など、経済的な支援を行う
 - ・就農支援のワンストップ窓口（技術指導から資金調達まで）を設ける
- 提案4 第一次産業の新たな担い手を育成するために、何が必要ですか
- ・インターンシップなど幅広い年代の人が体験できる機会を設ける
 - ・一定期間にわたって技術を身に付けられるしくみをつくる
 - ・体験学習など学校で第一次産業に触れる機会を設ける
 - ・資金援助、農地・農機具の貸与など就業を支援するしくみをつくる
 - ・収入の確保や労働環境の整備を行う
 - ・就農希望者が耕作放棄地などを活用できるしくみをつくる
- 提案5 農山漁村のくらしに誇りを持てるように、どんな交流をするといいですか
- ・地域のイベントや祭りに参加してもらう
 - ・生産物などの販売や調理のルートを知る機会を設ける
 - ・試食会などで生産者と消費者・販売者が交流する
 - ・大人、子どもも含めて、日々のくらしを知ってもらう機会を設ける
- 提案6 農山漁村の暮らしの魅力を知ってもらうために、どんなことをするといいですか
- ・他地域のイベントや行事などでPRを行う
 - ・暮らしや第一次産業を体験できるイベントやツアーをつくる
 - ・空き家を活用した滞在や民泊などで、田舎暮らしを体験する
 - ・地元の料理や祭りなどをPRする
 - ・サポーターや農作物のオーナーをつくる
- 提案7 食育への意識を高めるために、何が必要ですか
- ・学校給食で地元の食材を利用する
 - ・学校の授業や産地との交流などにより、食について学ぶ
 - ・農作業などの体験を通して、食への意識を変える
 - ・生産者から地域産品を使った料理を教えてもらう場をつくる
- 提案8 どのような情報発信をすれば、農山漁村の魅力が伝えられますか
- ・作物が成長する過程など生産の姿を伝える
 - ・風景や食、祭りなど地域の魅力や暮らしの豊かさを伝える
 - ・インターネットや広報、メディアなどを活用して定期的に情報を伝える

設問6 今後の会議に対するご意見

今後の「みえの舞台づくり」会議で「あたらしい農山漁村づくり」について議論を深めていくにあたって、数多くアイデアをいただきました。

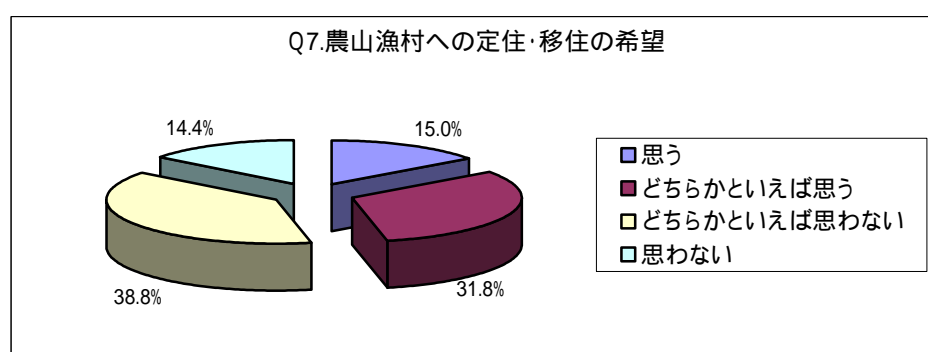
- ・地域産品について、まず県内でアピールする
- ・他の地域との差別化をはかり、全国にPRする
- ・若い人が住みたい、働きたいと思う環境を整備する
- ・農山漁村の若者が地元において、やりがいがあり、一定の生活ができるようにする
- ・農山漁村づくりは住んでいる人が元気であることが大事なので、消費者側から地域を支援するしくみづくりが考えられないか
- ・医療、交通、買い物などの生活環境を整備することは必要である

- ・実際に生活している人から、田舎暮らしの生の声をくみ上げる
- ・農山漁村での生活が1年間体験でき、その間生活も保障されるような学校をつくる
- ・地域に暮らしている人が、いろいろな人の意見を聞く場を持ち、地域の良さを再発見してほしい

設問7・8 農山漁村への定住・移住の希望とその理由

農山漁村に住み続けたい、または、移り住みたいと「思う」が15.0%、「どちらかといえば思う」が31.8%と、「思う」とお答えいただいた方が46.8%でした。その主な理由は、「自然環境の良さ」が最も多く、続いて「のんびりした生活環境」、「退職後住んで見たい」、「住み慣れた場所・生まれ育ったところ」などでした。

一方、農村漁村に住み続けない、または移り住みたいと「思わない」が14.4%、「どちらかといえば思わない」が38.8%と、「思わない」とお答えいただいた方が53.2%でした。その主な理由は、「不便」が最も多く、続いて「医療・健康面への不安」、「仕事・住居・教育などの理由から転居できない」、「収入面の不安」などでした。



さいごに

今回のアンケートでいただきましたご意見・ご提案につきましては、このアンケートの後「みんなで創ろう『みえの舞台づくり』会議」で議論する際に活用させていただきました。

お忙しい中、ご回答いただきましたモニターの皆さまには、改めて心よりお礼を申し上げます。